

佐藤渡辺「縦取り式 スリップフォーム工法」



交通開放しながら施工可能

み立てとコンクリート打設が同時にできる。一般的な



片側車線の通行を確保した状態で鉄筋の組み立てとコンクリート打設を同時にできる。

一方、縦取り式は片側の車線だけでコンクリートの供給からコンクリート打設、鉄筋の組み立てまでの作業が完結できる。縦取り式には同社独自の「縦取り機」を使用。縦取り機としては道路舗装業界

がある。

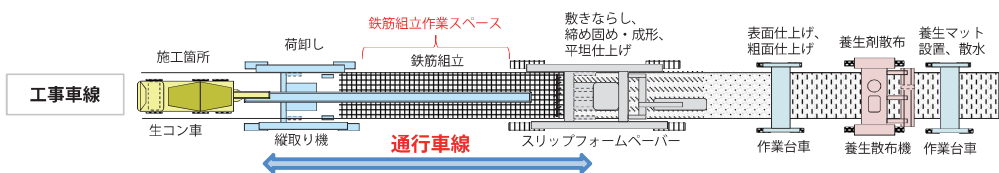
国土交通省関東地方整備局発注の「中部横断福土楮根地区舗装工事」(山梨県南部町)で2月22日、佐藤渡辺の独自技術「縦取り式スリップフォーム工法」によるコンクリート舗装が完了した。同社が関東整備局管内で同工法を実施したのは初めて。片側車線の通行を確保した状態で鉄筋の組み立てとコンクリート打設が同時にできる。一般的な工法と比較して1割程度の工期短縮が見込めるという。楮根第一(第三トンネルの南側)に同工法を適用した。第三(延長165m)と第二(131m)は2日、第一(380m)は4日でコンクリートの打設が完了した。バーにコンクリートを供給する生コン車が停車するため、2車線とも通行止めする必要

コンクリ舗装工期1割短縮

最長の33mのベルトコンベヤーが付いており、生コン車から供給されたコンクリートを、離れた場所にあるスリップフォームペーパーに送る。縦取り機を使うことで生コン車と同じ車線上でコンクリート打設もできる。ベルトコンベヤー直下のスペースは広く、スペースを使った鉄筋の組み立てが可能。スリップフォームペーパーは打設をしながらゆくりと前進する。

打設と鉄筋の組み立てを同時にできるため、あらかじめ鉄筋を組み終えてから打設する方法と比較して工期が短縮する。交通への支障を最小限に抑えながら高効率施工が実現する。

中部横断道は複数の工区で工事が進行している。同社の施工区間に隣接する工区では工事車両の交通需要があることから、片側車線の通行を確保して施工できる縦取り式を採用した。



縦取り式スリップフォーム工法の概要

